

富士通グループのCSRの取り組み

2016年3月8日
富士通株式会社
CSR推進室
部長 藤崎壮吾

富士通グループのスケール

 連結子会社数

510社

 従業員数

15.9万人

 売上高

4.75兆円

 データセンター数

121カ所

EMEIA

 131社
 2.9万人
 9,906億円
 24カ所



アジア

 92社
 1.8万人
 3,872億円
 10カ所

日本

 197社
 9.9万人
 28,732億円
 71カ所



オセアニア

 39社
 0.4万人
 1,101億円
 6カ所



アメリカ

 51社
 0.8万人
 3,921億円
 10カ所

CSRに関する外部評価

- ダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックス
産業グループリーダー (ソフト & サービス) ※世界一！



- 国連グローバルコンパクト株式インデックス100

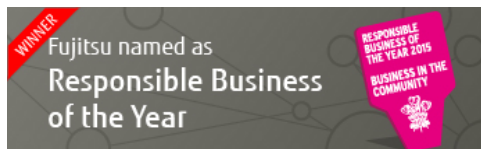


- FTSE4Good インデックス



- フォーチュン誌 世界で最も賞賛される企業

- 英BITC レスポンシブル・ビジネス・オブ・ザ・イヤー



CSR報告書2015 トップメッセージ

～経営者の使命として「持続可能性」を追求

富士通は事業の中心に人を置いて、人を幸せにする会社です。

ヒューマンセントリック・イノベーションの実現には、3つの観点から「持続可能な発展」に貢献することが重要と考えます。

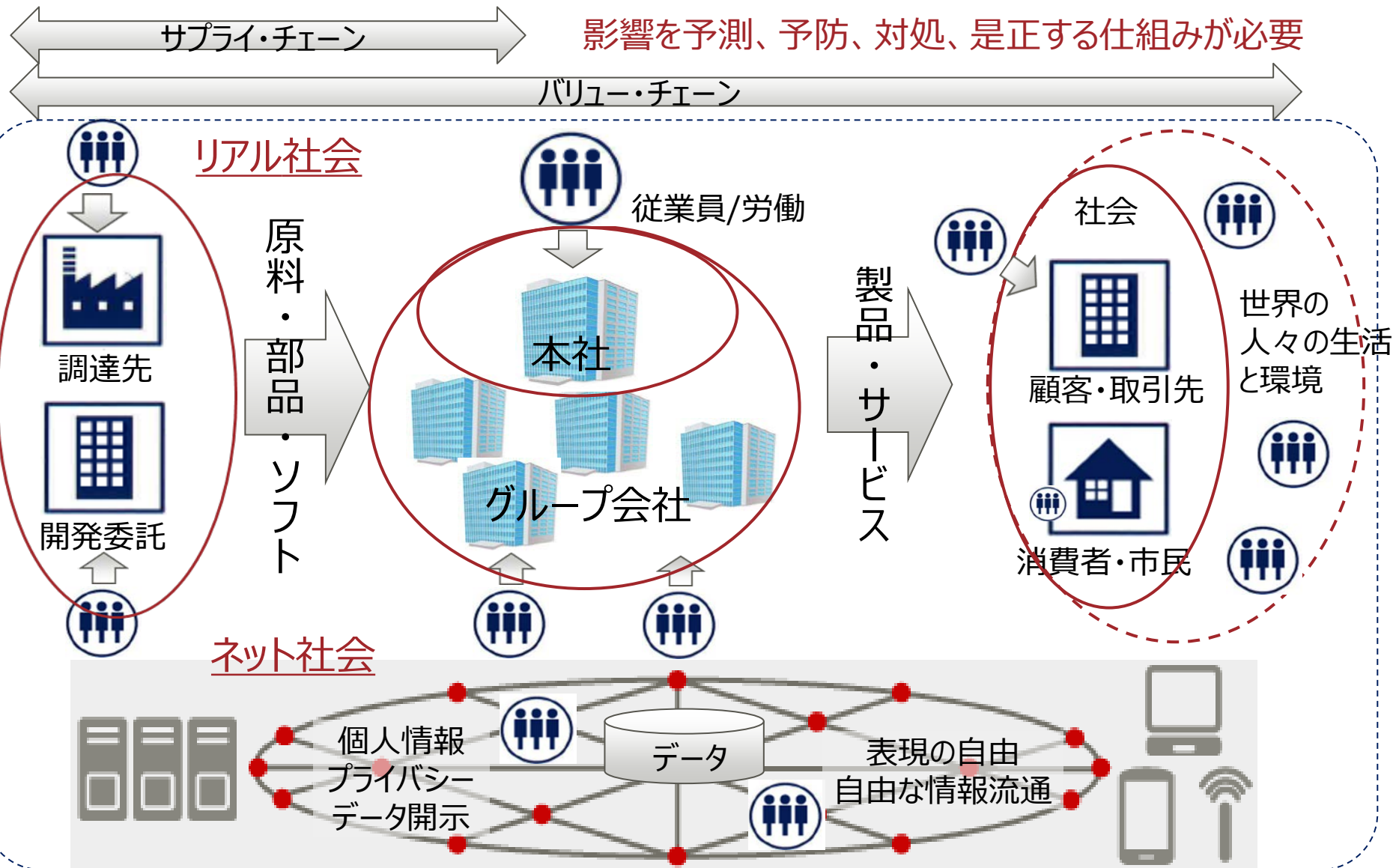


富士通株式会社 代表取締役社長

田中 達也

- 地球・社会(ICTによる価値創造)
 - 気候変動、エネルギー、食糧、都市化、高齢化、他
- デジタル社会(安心・安全な基盤維持)
 - データセキュリティ、プライバシー保護、サイバー攻撃、他
- 企業(社会的操業許可の維持・強化)
 - 人権、労働、環境、腐敗防止、他

「社会的責任」の範囲の拡大(ICTセクタ)



■ 国連グローバル・コンパクト

- GCNJ分科会: SDGs, 人権, レポーティング ほか

■ 世界経済フォーラム(WEF)

- IT 産業パートナー

■ 持続可能な開発のための経済人会議(WBCSD)

- 社会インパクトクラスター(ボードメンバー)

■ 国際統合報告評議会

- テクノロジーイニシアティブ/ ビジネスネットワーク

■ Shift Project

- ビジネスラーニングプログラム

FUJITSU Wayの徹底

～富士通グループの理念・指針の明文化

企業理念

富士通グループは、常に変革に挑戦し続け
快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し
豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します

目指します

社 会・環 境	社会に貢献し地球環境を守ります
利 益 と 成 長	お客様、社員、株主の期待に応えます
株 主 ・ 投 資 家	企業価値を持続的に向上させます
グ ロ ー バ ル	常にグローバルな視点で考え判断します

大切にします

社 員	多様性を尊重し成長を支援します
お 客 様	かけがえのないパートナーになります
お 取 引 先	共存共栄の関係を築きます
技 術	新たな価値を創造し続けます
品 質	お客様と社会の信頼を支えます

行動指針

良 き 社 会 人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します
お 客 様 起 点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します
三 現 主 義	現場・現物・現実を直視して行動します
チ ャ レ ン ジ	高い目標を掲げ、達成に向けて粘り強く行動します
ス ピ ード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します
チ ーム ワ ーク	組織を超えて目的を共有し、 一人ひとりが責任をもって行動します

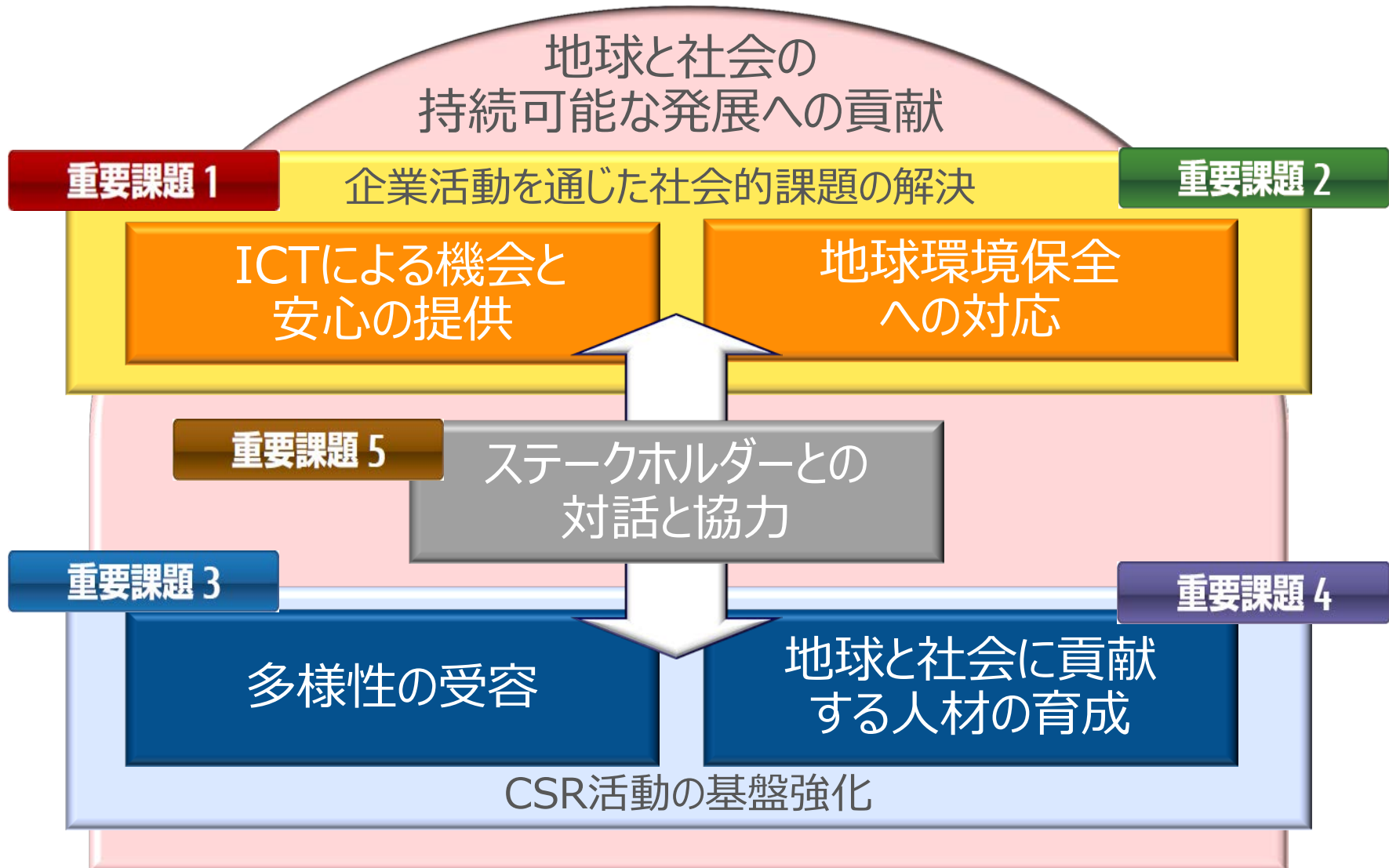
行動規範

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

※ 16か国語で全グループ従業員にe-Learningを実施、携帯用スモールカードを配布

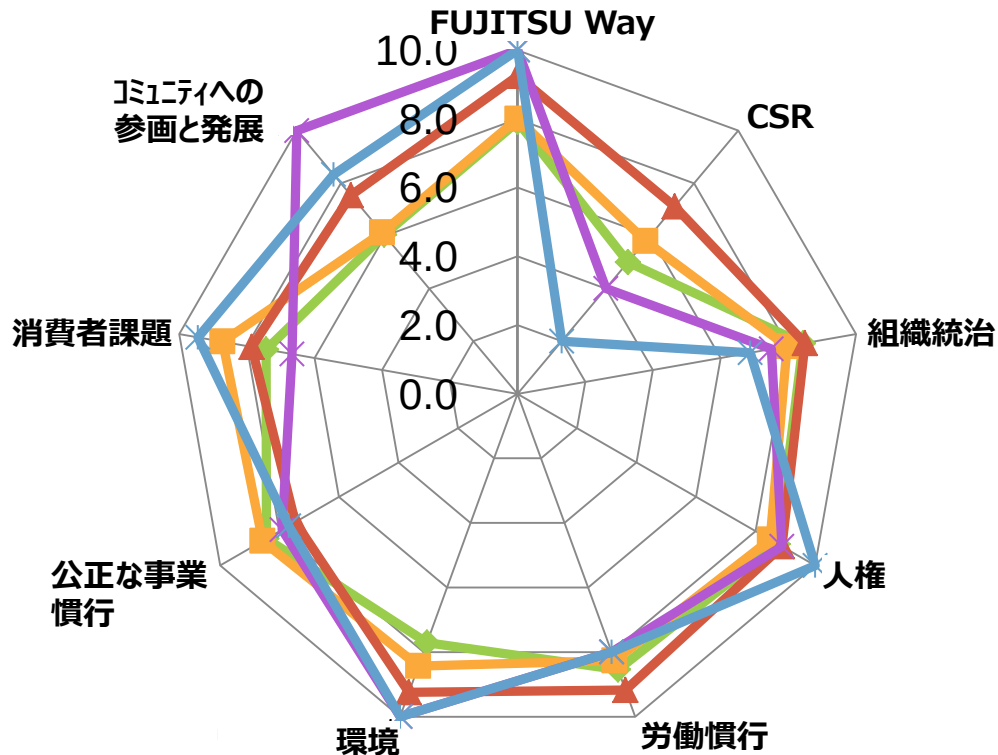
CSR基本方針と重要課題の設定

～FUJITSU Wayの実践に向けて



ISO26000を活用した年次調査(2012年～)

～主要グループ約120社の定期チェック



■ リージョンにおける課題

- リージョン共通でCSRの取組みが課題（特に米・豪）
- CSR以外では各リージョンにおいて以下のテーマが課題
 - ① 亜：コミュニティ
 - ② 欧：コミュニティ
 - ③ 豪：消費者課題
 - ④ 米：組織統治

◆ ASIA
■ EMEIA
▲ JAPAN
✕ OCEANIA
✱ US/CANADA

Region	Way	CSR	組織	人権	労働	環境	公正	消費者	コミュニティ
Asia	8.9	6.0	8.5	8.9	8.7	7.1	8.4	8.2	6.0
EMEIA	8.0	5.8	8.0	8.5	8.3	8.4	8.6	8.7	6.1
Japan	9.1	6.9	8.4	8.9	9.2	8.9	7.4	7.6	7.3
Oceania	10.0	4.0	7.5	8.9	8.0	10.0	7.9	6.7	10.0
US/Canada	10.0	2.0	6.9	10.0	8.0	10.0	7.7	9.4	8.3

グローバルCSRボードの設置

～海外拠点と一体となった活動推進

設置日：2015年4月（年2回開催）

構成員：

■ 本社機能

コーポレート担当副社長、法務・知財・コンプラ担当役員
購買担当役員、人事労政担当役員、リスク担当本部長

■ リージョン長：

アジア担当役員、EMEIA担当役員、米州担当役員、オセアニア担当役員

■ 実務代表者(Liaison Delegate)：各地域1名



討議トピック例（2015年10月）

1. 人権デュー・デリジェンス（NGOとの連携）
2. 調達関連文書の改訂
3. EICCの枠組み活用（自己監査含む）
4. CSR報告書/統合レポート
5. CSR基本方針の改版

2015～16年度の主な施策

2015年度より、CSRボード会議の決議事項に基づき、各グローバル・コーポレート部門(人事、法務、購買ほか)は海外拠点と連携しながら、以下の各施策を実施しています。

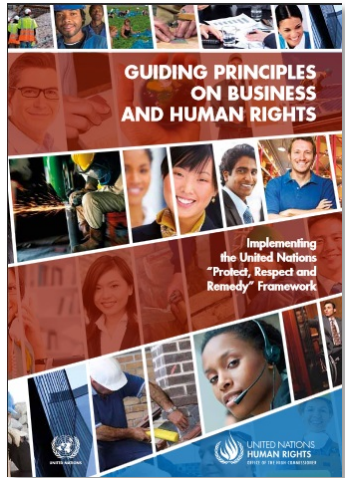
2015-2016年度に実施する主な施策



人権ステートメントの公表(2014年12月)

～人権デュー・デリジェンス確立に向けて

「ビジネスと人権に関する指導原則」を参考に、人権ステートメントを策定

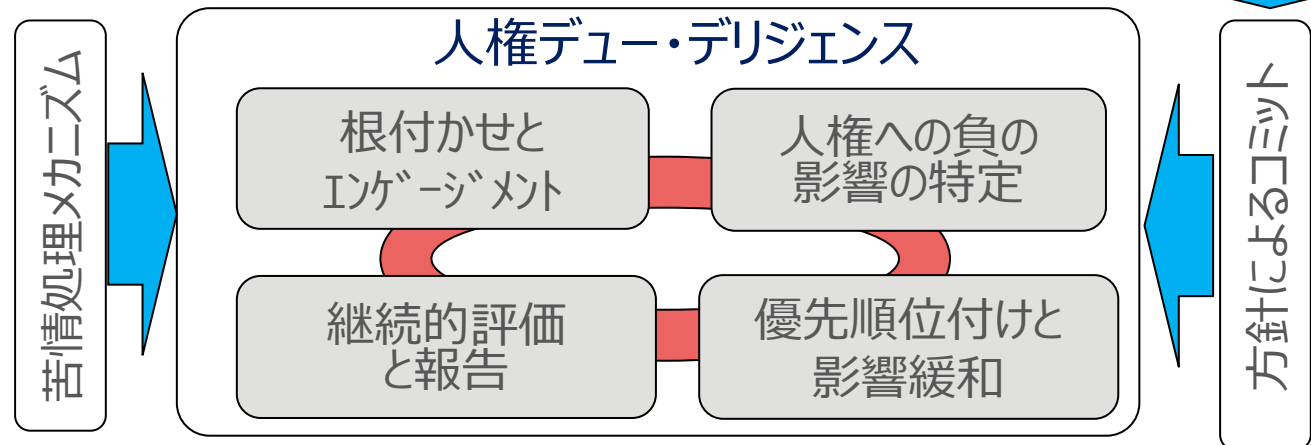


富士通グループ人権ステートメント (21ヶ国語に翻訳)

1. 人権尊重のコミットメント
2. 国際人権基準の理解 (世界人権宣言, ILO原則ほか)
3. 人権デュー・デリジェンス (影響の特定, 防止、緩和、是正)
4. ICT 分野の課題 (データ・セキュリティ、プライバシーなど)
5. 人権尊重を根付かせる (人権啓発、ダイバーシティなど)

2015年度施策例

- 全社e-Learning
- 同ポスター配布
- 各リージョンでのリスク分析WS



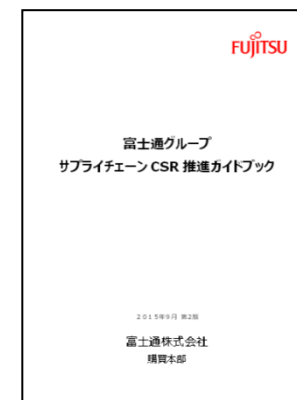
EICC(電子業界CSRアライアンス)の枠組活用 ～サプライチェーン・リスクへの取り組み強化

■ EICC監査等についての対応強化（2014年-）

- EICCに関わるグループ内勉強会の実施（国内30社）
- 同 社外講師による 基礎セミナーの開催（国内20社）
- 同 模擬監査（於：FDK株式会社）の実施
- 同 内部監査員養成講座の開催（国内7社）
- 同 海外主要拠点におけるSAQの実施（海外8社）

■ 購買文書の改訂(2015年9月)

- CSR調達指針
- サプライチェーンCSR推進ガイドブック(第2版)
富士通グループが自ら遵守し、お取引先にも遵守を依頼
(紛争鉱物、人権含めた、CSRに関する取組の拠り所となる内容)



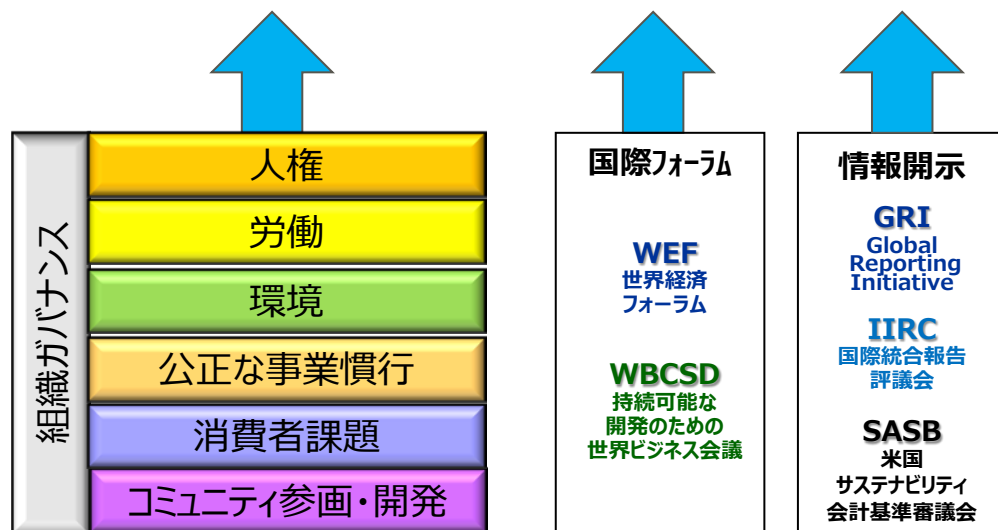
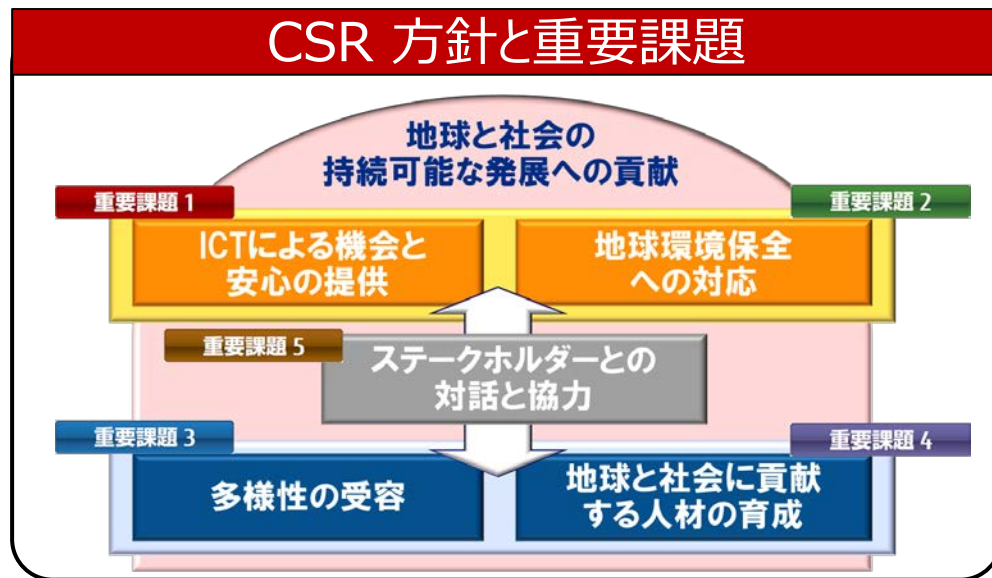
<http://www.fujitsu.com/jp/documents/about/csr/society/procurement/2015-09-30-CSR-Guidebook.pdf>

CSR基本方針の改版

～国際動向や規範を踏まえた改版に着手



国連持続可能な開発目標 2015年9月～



統合レポートの発行

～一体的な情報開示

ICTの力で新たな「場」を創造し、人々の生活や社会全体をつなぐことで革新的な価値の創造に挑んでいきます。

[経営者メッセージより]

2015年9月、国連で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されましたが、世界の持続可能な発展にはICTの活用には不可欠です。そのため、事業と社会の共通善を重ねることは富士通の社会的責任であると同時に、ビジネスチャンスであると考えます。

■ 国際統合報告評議会の下記分科会に参加

■ テクノロジーイニシアティブ

■ ビジネスネットワーク



Fujitsu Technology and Service Vision



～ICTによるビジネスと社会のイノベーションへの貢献

最終章「責任あるビジネス(P35)」より

私たちは世界中のいたるところで重大な課題に直面しています。世界人口は70億人を超え、さらに増加しています。先進国では高齢化が進行し、発展途上国では都市化への対応が大きな課題となっています。これらの要因は、食糧、水、交通、教育、医療、防災、エネルギーや環境などの分野での課題を引き起しています。

そして、地球温暖化はすべての人々の生活や経済活動にとっての大きなリスクであり、低炭素で持続可能な社会の構築が急務となっています。

富士通は、ICTがこれらのグローバルな課題に対して重要な役割を果たすことができると信じています。私たちの事業と社会の共通善の実現を一致させていくことは、目標というだけでなく、責務です。

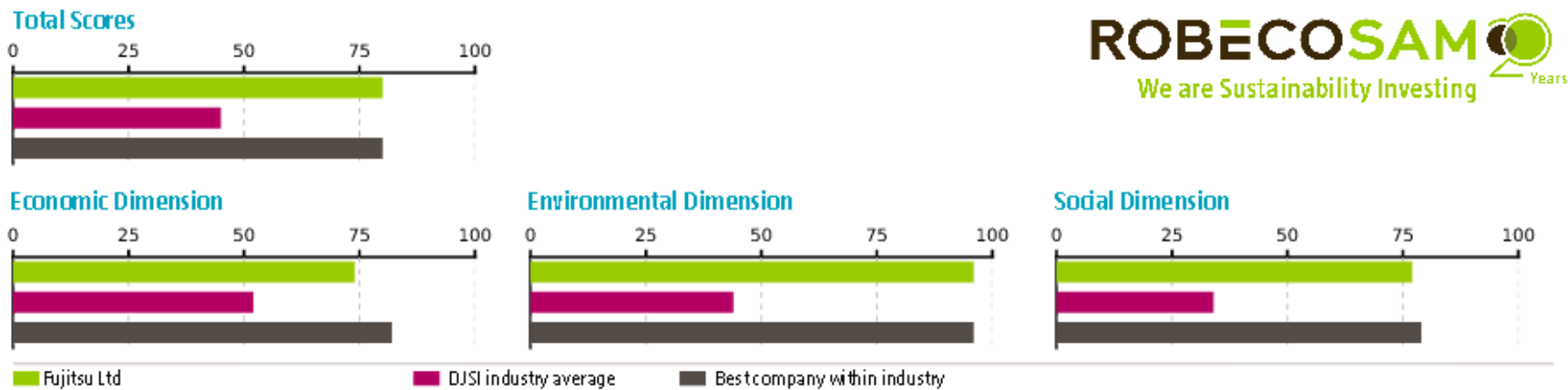
出所: http://www.fujitsu.com/jp/Images/FTSV2015_Main_JP_FV0021-3.pdf



ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス 2015

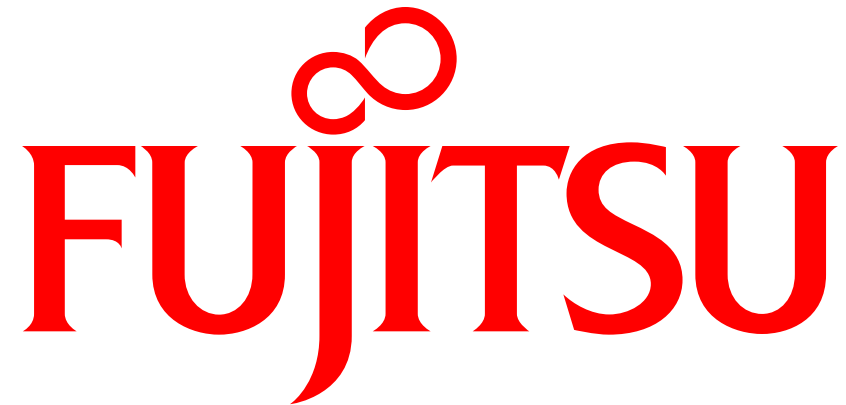
～ソフト＆サービス産業グループリーダ(24社)に初選出

Sustainability Scores



By expanding the use and application of ICT, the Fujitsu Group has contributed to reducing its customers' and society's environmental impact. The company is committed to technology that supports people, and through its Human Centric Innovation principles, it believes it can transform people's lifestyles and society at large. The group seeks to contribute to a more sustainable society and has started by reducing its own environmental impact, and by addressing global environmental challenges in cooperation with its customers and society. Fujitsu's environmental efforts also enable it to generate new business opportunities. For example, by optimizing a higher education datacenter, it helped it reduce its power consumption by 80% while providing an enhanced educational environment. Going forward, the company plans to implement additional specific group-wide CSR management initiatives related to human rights, labor practices, and fair business practices. It also aims to leverage platforms to strengthen group governance, including building a CSR Global Community comprised of its CSR leaders from its various companies.

出所: http://www.sustainability-indices.com/images/Industry_Group_Leader_Report_DJSI2015_Fujitsu-Ltd.pdf



shaping tomorrow with you

このプレゼンテーション資料、及びミーティングで配布されたその他の資料や情報、及び質疑応答で話した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により実際の結果・業績または事象と異なることがあります。

実際の結果・業績または事象に影響を与うるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。
(但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)

- 富士通の提供するサービスまたは製品にとって主要な地域（日本、EMEIA、アメリカ、アジア、オセアニアなど）のマクロ経済環境や市況動向。中でも当社顧客の I T 支出に影響を及ぼすような経済環境要因。
- 急速な技術変革や顧客需要の変動。及び富士通が参入している I T 市場、通信市場、電子デバイス市場での激しい価格競争。
- 他社との戦略的提携や、合理的条件下での他社との取引を通じて、富士通が特定のビジネスから撤退し、関連資産を処分する可能性。およびこのような撤退・処分から発生する損失の影響。
- 特定の知的財産権の利用に関する不確実性。特定の知的財産権の防御に関する不確実性。
- 富士通の戦略的提携企業の業績に関する不確実性。
- 富士通の保有する国内外企業の株式の価格下落が、損益計算書や財政状態計算書などの財務諸表に与える影響。およびこの保有株式の株価下落により発生した富士通の年金資産の評価減とこれを補うために追加拠出される費用の発生による影響。
- 顧客企業の業績不振、資金ショート、支払不能、倒産などに起因する売掛債権の回収遅延や回収不能によって、当社が被る損害の影響。
- 富士通が売上収益及び利益を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動、および富士通が資産や負債を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動により発生する影響（特に、日本円と、ユーロ、英ポンド、米ドルとの間の為替差損益の影響）。